

2023 年度 上越支部活動報告会 意見交換会

A・B グループ・・・学校、行政

C・D・E グループ・・・福祉、医療、地域活動

A グループ	テーマ：学校と行政の連携
<p>○上越市アプリ（マイナンバーとの連携）の活用…ウォーキング機能＋健診結果の管理ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだポイント付与まではしていない。 ・企業が健康づくりの一環として取り入れてもらえば全員行うのではないか。 ・使用できる市民には積極的に進めて行く。 ・IOT が苦手な人へのサポートも必要。 <p>○実際指導してみて、本日発表された「上越市の課題」とリンクはしている。</p> <p>○子供の肥満について</p> <p>上越市・妙高市は新潟県全体から見ると高い。全国的に比較するとそんなに悪くはない。</p> <p>○小～高校生までの健康について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液検査と生活習慣の小5 から中2 の変化から見える課題 <ul style="list-style-type: none"> ・土日の食習慣 ・朝が遅い ・外食の選択がラーメン ・おやつが食事 ・習い事や親の生活習慣が影響しているのでは。親に余裕がない。 ・子供のやせについては、市の次の計画にはあがっている。やせと肥満の二極化が課題。 	
B グループ	テーマ：食を通して見える課題～総合支援の必要性
<p>○肥満指導したいが、700 人以上の子供が在籍。養護教諭も忙しい。20%以上の子供が肥満。(小学校 栄養教諭)</p> <p>○知的障害の子供たちに対して、親達への肥満指導は非常に難しい。(特別支援学校栄養教諭)</p> <p>○医療的支援を含めて、外国の方も増えている。15%の軽度肥満から関わると改善しやすい。全員の対象者に関わる事は無理でもピンポイントで支援してる。(市役所)</p> <p>○生徒 600 人。PTA などの機会に何か指導できればと思う。生活面、心理面で支援の必要な子供が多い。家庭での食事はどうしているのかと心配な生徒もいる。食の改善の前に生活の立て直しが必要なのではないか。今、給食室工事で昼食を持参してきてもらっている。栄養のバランスよりまず弁当を持ってくるのが大切なので、給食だよりにレシピを載せている。(中学校栄養教諭)</p> <p>○一人で何とかしようと悩んでしまう。しかし「何もできない」の繰り返し。行政に頼り連携する(つながる)ことが一歩前進となる。子供の健康の為、その家族の健康ライフのために！(総括)</p>	

C グループ	テーマ：食事摂取量の少ない方への支援
<p>○委託業者と補助食品の契約をしているがそれだけでは不足している。施設購入が出来ない事が悩み。薬剤のものを処方してもらったり、家族の方へ協力してもらったりしている。(病院栄養士)</p> <p>○食事だけで摂取量が足りている方はいらっしゃらない。8割の方は不足している。補助食品は病院で購入している。(病院栄養士)</p> <p>○体調によって適宜補助食品を提供している。(施設栄養士)</p> <p>○補助食品の費用負担について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時食事療養費の中でまかなう。患者への負担はない。 ・委託業者に出してもらっている分は管理費に含まれており、上限が決まっている。 ・エンシュアをゼリーにしてもよいのか？(施設職員がつくっているところもある) 	
D グループ	テーマ：食べられない方へのフォロー
<p>○嚥下・咀嚼機能や消化器能の低下等、食べられない原因はさまざま。食べられない方には食事を少量にして補助食品を使用する。</p> <p>○面談で嗜好を調査するが、決められた中で対応するのは難しい面もある。</p> <p>○体重減少の方へ、パンが食べやすいので食パンにして提供したが、それも食べられなくなり薄皮パンに変更し対応した。食材料費が高騰し調整が難しい。</p> <p>○嚥下機能低下→誤嚥性肺炎→入院となるが、食べられるようになるまで苦労する。ポカリゼリーやエンシュアゼリーで開始してゼリー食のまま落ち着いてしまうケースが多い。</p> <p>○介助の仕方によっても食べ方が違う事を感じている。</p> <p>○年齢の幅も広く食事提供の難しさを感じる事がある。</p> <p>○摂食機能が低下したら、ペースト食になるのが現状。栄養補助食品を使用。ドリンクタイプの捕食しか飲みませんと言う方もいて困る。</p> <p>○どの施設も栄養補助食品を使用する、食形態の変更で対応している。各施設によって食種・食形態も様々で対応も違う。多職種の関わり合いの中で考え方の違いもあり、食事提供の難しさを感じる。</p>	
E グループ	テーマ：食べられない人の食事の課題と今後の課題
<p>○対象者の意思疎通が難しい。</p> <p>○ショートステイなど、施設⇔在宅を往復される方の食事指導が難しい。</p> <p>○補助食品の使用料が増え、価格が高くなってしまう。</p> <p>補助食品数、経管栄養剤などの負担は、施設側、委託業者側、利用者負担どうなっている？</p> <p>薬剤のものしか使用できない施設もある。半面、同じ特養でも「無駄な税金を使わなくていい」という医師の考えの下、薬剤の栄養補助食品等は使用できない施設もある。</p> <p>○食品成分表8訂に改定後、どのように対応しているか情報が欲しい。</p>	

<当日の様子>

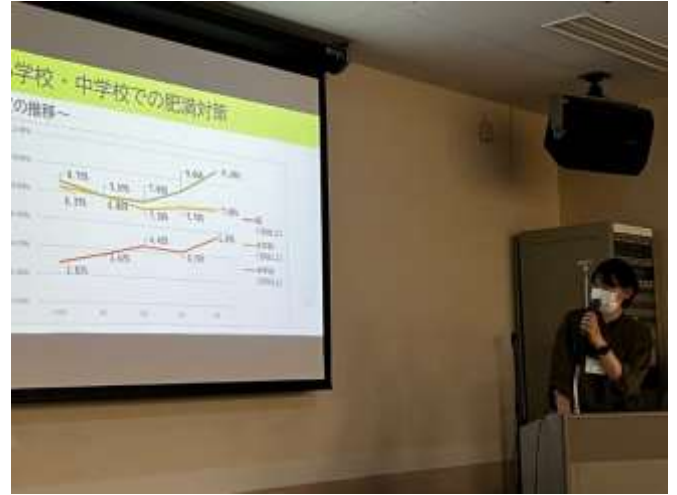
○発表：上越市・妙高市の健康づくりの現状と課題

上越市役所 健康づくり推進課

上席栄養士長 大石浩士 様

妙高市役所 こども教育課

主査 宮本あゆみ 様



○上越支部活動紹介 榎谷支部長



○会場の様子

